

1) テーマ「多職種連携実習を実施して」

2) カテゴリー：③教育方法

3) 学校概要 学校名：奈良看護大学校

所在地：奈良県生駒郡三郷町三室 1-14-1

課程名：3年課程

1学年定数：80名

修業年限：4年

4) 内容

医療を取り巻く環境の変化は、カリキュラムの改定など学校教育へも大きな影響を与えている。少子化・生産年齢人口の減少問題は、タスクシフト（シェア）、多様性の理解などの重要性を含んでおり、チーム医療のあり方を再考する機会となった。本校は看護学科単科のため、多職種連携の実習という形態をとっていなかったが、チーム医療(多職種連携)実習の必要性を考え、多くの職種の実習を受け入れている奈良県総合医療センターと連携し、多職種合同の実習を開始した。

1回目：5月18日、理学療法士学生（4年生）3名、本校看護学生（3年生）6名で、模擬患者に対するそれぞれのケアプランを立案し発表した。その結果、理学療法士学生は日常生活の回復、「夢を諦めない」という思いがあったが、看護学生は病気のケアに集中するという傾向にあった。

2回目：6月29日、薬剤師学生（5年生）6名、理学療法士学生（4年生）4名、本校看護学生（3年生）7名で、「多職種との考え方の違い」にこだわり、実習を行った。①それぞれの職種の学生のケアプランの発表後、②「自分達とは違う、多職種の考え方」について発表し、③最後に混合チームでカンファレンスを行い、ケアプランの再立案を行った。混合チームでのケアプランは多職種の大切にしている想いをそれぞれが理解したケアプランであった。例えば、薬剤師学生のみでのケアプランは「内服薬の自己管理」であったが、混合チームでのケアプランは、治療薬剤の副作用を考慮したリハビリプログラムで、長期的には「社会復帰」という目標へと変化していた。本校看護学生の学びとして、看護ケアの狭い視野から他専門家（薬剤・理学療法）の視点を取り入れ、社会復帰、退院後の患者さんのことも考える様になっていた。

まだ、2回の実習ではあるが、学生の気づきや学びの拡大に教職員も刺激を受けている。今後も学校・臨床との連携を保ち、対象を病院の患者さんとしてだけでなく、社会で生活する生活者として捉え、複眼的に支援する学びを深めていきたい。

